
私も昨日は恋してた

こぬか雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私も昨日は恋してた

【Nコード】

N5394BA

【作者名】

こぬか雨

【あらすじ】

顔も知らない、年齢も知らない、本名も知らない、性別も分からない画面の向こうの誰かさんに恋をして、自分の愚かさに唐突に気付くある女の子の話。

(前書き)

なんだかいきなり短編が書きたくなくて、5分で書きなぐるように書いた話です。

リアリティがあるので共感したり反発したり人によって感想は様々なんじゃないかと思えます。

目の端に光を捕らえた。
次の瞬間にはケータイを手中に収め、メールを受信したことを確かめている。

彼からかな？

彼からがいいな

期待と不安ではち切れそうな胸をどうにか抑えて、受信BOXを開く。

そこに現れたのは見慣れた彼の名前。

私はほっとため息を吐き、ゆっくりメールを開いた。

数分前に送ったメールの返事が、素っ気なく一言書かれている。ぶつちやけ内容はどうでもいい。彼とメールで繋がっていられば、それで充分だ。

何時間も返信が来ないと、忙しいんだろうと分かっただけでもたまらなく不安になる。

そんな自分が嫌になるけれど、でもやっぱり彼とメールがしたい。

彼の顔は知らない。

彼の名前も本名かは分からない。

彼の性別だってもしかしたら違うかもしれない。
それでも。

彼のことなんにも知らなくても。

私は彼に恋してる。

ほんの数分間のやり取りにも胸が踊る。彼と私を繋ぐのはメールしかないから。でも毎日メールするのってなかなか大変で、話題が見つからないとメール出来ない。おまけに彼は気付いてないし。毎日メールなんかして嫌がられないかな、なんて。

我ながら馬鹿だと思う。でもしょうがないじゃん、少しでも彼と時間を共有したい。

ずっとそう思ってきて、今日もそう思ってた。はずなのに。

なんだか違う。私、無理してる。

毎日必死に話題探してメールして、これってなんて馬鹿馬鹿しいんだろう。

唐突に私は私をピエロだと思った。

思いつきり笑いたくなって、急に今までのときめきが壊れちゃって。

さっきまで、私は確かに恋してたのに。

涙が一筋頬を伝った。これが儚い恋の終わりの合図。

私も昨日は恋してた。

恋して馬鹿して遊んでた。

(後書き)

いかがだったでしょうか？

描写もなにもあつたもんじやない話ですが…

彼女の気持ちを掴んでいただければ幸いです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5394ba/>

私も昨日は恋してた

2012年1月14日21時50分発行